

Rainbow Project 日本語版 会話：飛行機編解説

日本語学習者にとっては、大阪方言はそれまでに習っていない日本語なので、別言語と思う人がいるようです。それはどの言語を学んでも、いわゆる共通語以外で話しているのを聞けば同じことを感じます。飛行機編では、同一の場面で大阪方言話者が共通語話者と違った発話をしていることを対照的に示しています。ある程度日本語共通語が聞きとれるようになったレベルで、共通語以外の方言をある程度聞きとれるか、その人がどういう意図で話しているかを理解していただければと考えております。

なお、撮影時間の制約により収録できる会話が限られていることをあらかじめご了承ください。

1. コーヒーを下さい

この課で想定されている場面は、「何かを頼むために母語以外の言語を話す。通じたかどうかは、頼んだものが出てくるかどうかで分かる」といったものです。はじめから流暢に会話を通じるわけではありません。片言でも通じたかどうか分かる会話の例として挙げています。

共通語 「すみません。コーヒーください」

大阪方言 「すいません／すんません。コーヒーください」

くだけた 「すんません。コーヒーくれる？」

ぞんざい 「おねえちゃん、コーヒーちょうだい」

大阪方言で、表現そのものは共通語と変わらないことは多々あります。しかし、アクセントやイントネーションは異なります。また、「すみません>すいません>すんません」の順に待遇の度合いは下がっていきます。ただし、下がったからと言って必ずしも卑しめたり侮蔑したりしているわけではなく、身近な人に対して親近感を込めてという場合もあります。

大阪方言（ぞんざい）における「おねえちゃん」という声かけは、機内でのビジネスマンの会話としてはあまり見かけるものではありません。しかし、街中では声をかける時や買い物をする際に若い女性のことを「おねえちゃん」と言うことはしばしばあります。ちなみに、もう少し年齢が上の女性であれば「おねえさん」になります。

「ください」については、「ください>もらえる？／くれる？>ちょうだい」の順で待遇の度合いは下がっていきます。「いただけますか」や「もらえますか」は「ください」よりは待遇の度合いが上がり、日常的によく用いられますが、本課ではより単純な会話にしたので、これらの表現を用いませんでした。

2. トイレはどこですか？

以前に語学学校での受講生同士の雑談で、海外旅行で切実な会話として、トイレの場所を聞くのは知っておかないとという話になりました。そこで、『旅のお供に今すぐ使えるトルコ語入門』では、第2課をトイレの場所を聞く場面にしました。ただ、機内では大抵は聞かなくても分かるという点では不自然ですが、第1課と同様にトイレにたどり着けば会話は通じたということが確認できるという点をふまえて、このような設定にしました。

共通語 「すみません。トイレはどちらでしょうか？」

くだけた 「すみません。トイレ、どこ？」

大阪方言でも丁寧な言い方であれば、共通語と同じ表現を使うことはしばしばあります。この課では極端に落差をつけるために、くだけた大阪方言では丁寧語をつけていません。「どちらでしょうか>どこですか>どこ」の順で待遇の度合いは下がっていきます。ぞんざいな大阪方言を設定していたら、「おねえちゃん、トイレは？」にするつもりでした。

3. 何時に到着しますか

機内で定刻通りに着かない場合、定刻を忘れてしまった場合に発する会話です。この課では、尋ねた話者が当該言語での数字を理解できているかどうかを想定しています。したがって、数字ならびに時間表現を理解していないと相手の会話が聞きとれません。

共通語 「沖縄には何時に到着しますか？」

くだけた 「沖縄、何時ごろ着くの？」

くだけた大阪方言なら、「着くの？」「着くん？」「着くのん？」があるでしょう。「着くんや？」となると、若干いらいらしながら相手に尋ねているというぞんざいな表現になります。

CA 「午後2時に到着いたします。あと1時間でございます」

トルコ語では、「1時」と「1時間」では「時」をあらわす「saat」が数字の前に来るか後に来るかで「saat bir=1時」「bir saat=1時間」のように異なります。日本語では、語順は同じで、「～時」や「～時間」という数字の後につく助数詞の形の違いで区別できます。

この場面では、CA役の女性が時計を見ずに会話しているのが不自然だということを、当日乗客役で参加していた留学生に指摘されました。この反省は「都電編」で活かすことになりました。